

長崎市内民生委員の活動のモチベーション

中尾理恵子¹・川崎 涼子¹・杉山 和一²

要 旨 長崎市において、地域で高齢者への援助活動を行っている民生委員に対し、活動に対する考えを明らかにすることを目的として調査を実施した。3つの異なる地区特性を持つ地区から選ばれた、代表的な9人の民生委員に聞き取りを実施した。地域援助活動に対する思いをKJ法によって分析した。その結果、陰性から陽性まで、さまざまな思いがあることが明らかとなった。陰性感情は、困難感や悩みから成り立っていた。陽性感情は、ケースとの関わりから得た自身へのよい影響と、民生委員同士の連帯や協働から得たものから成り立っていた。活動の質に影響を及ぼす民生委員の活動意欲を維持・向上するためには、相談や支援体制、継続教育、民生委員同士の連帯、活動評価を含めたアクティブなサポートシステムが必要であろう。

保健学研究 20(2): 25-29, 2008

Key Words : モチベーション, 民生委員, 地域, KJ法

(2008年3月7日受理)

I はじめに

高齢化の進展の速度は速く、長崎市の高齢者割合は23.4%を超えている(平成19年3月末現在)。長崎市の特徴である斜面地域は高齢者割合が高く、生活への影響も大きい。また、市内市街地の住宅地不足や住宅地整備のため郊外に新興住宅地が造設され、住民の居住地の移動が見られている。地域社会の中で高齢者の抱える問題は多く、社会生活からの乖離、閉じこもりや介護問題、孤独死などさまざまである。しかしながら、現代地域社会では近隣の間関係が希薄であり、住民同士のつながりや支えあいが高齢者の生活の支援につながっているとは言いがたい。

研究者らが2003年から行ってきた長崎市内の住民を対象とした調査¹⁻³⁾により、1)高齢者にとって斜面地域は身体的には負担となる、2)斜面地域居住の高齢者は平地地居住の高齢者よりも活動に対する意欲が高い、3)地域の持つ環境的な特徴(斜面地域、平地地域、新興住宅地)が住民のQOLに関連していることが明らかとなった。以上のことから、高齢者の活動に対する意欲を支え健康的な生活が維持できるためには、地域の社会環境を考慮した支援が必要であることが示唆された。

そこで今回、実際に地域住民の支援活動を行なっている民生委員に焦点をあて、活動に対するインタビュー調査を実施した。民生委員とは、民生委員法に規定され、県知事等の推薦により厚生労働大臣から委嘱され地区を担当している。社会福祉を目的とした住民の相談役や援助者として位置づけられており、地域住民に対する実際の活動をしている。そのため、地域の特性をよく知り、

現在地域で何が起きているのかという問題に最も身近な存在であり、実際的な援助者であると捉え、地域に合った地域支援を考えるには、民生委員と協働していくことは重要であると考えた。

この研究の目的は、地域住民の支援活動を行なっている民生委員の地域支援に対する活力(モチベーション)を考察すること、それをもとに民生委員への支援に必要な内容を検討することである。

II 言語の定義

「モチベーション」は、一般的には「動機づけ」と翻訳され、人や動物の行動を引き起こし、一定の方向に向かわせる一連の過程であるとされている。このことから今回は、民生委員が地域住民への援助を継続していく活力となっているものとし、民生委員がその活動に抱いている思いを分析することで得られると考えた。

III 研究方法

1. 調査対象

長崎市内で現在活動をしている民生委員を対象とした。長崎市の地域特性による偏りを避けるため、斜面地域、平地地域、新興住宅地からそれぞれ代表的な3地区を選定し、合計9地区の民生委員を調査対象とした。各地区の自治会長を訪問し研究の主旨を説明し、民生委員を紹介してもらった。各民生委員に直接会い、研究内容を説明し文書による同意を得て調査を行なった。調査は、平成19年7月から8月に実施した。

尚、本研究は、長崎大学医学部保健学科の倫理委員会

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻

2 長崎大学生産科学研究科

の承認を得て実施した。

2. 調査方法

調査者と記録者が対象者を訪問し1時間半程度のインタビュー調査を実施した。インタビュー調査が実際の担当地区に関する内容であり、匿名性の保持に特に留意する必要があるため、録音は行わず、個人名などを削除する配慮をしながら紙面上に記録を行った。インタビュー調査は、自由度の大きい半構成的な質問法で行なった。内容は、1)年齢、性別、担当地区名、2)民生委員になった経緯、3)昨年1年間に行なった援助内容、4)民生委員活動に対する思いについてであった。

インタビュー調査内容の質の確保のために調査前の準備として、インタビューガイド⁴⁾を作成し、話題の順序性、把握したい内容の項目、話の切り上げ方などを基本的な対処法を決めた。インタビュー方法と記録方法は、事前に実際のインタビューと記録者に対して複数回の訓練を実施した。

3. 分析方法

インタビューにより得られた結果は、KJ法^{5,6)}によって質的に分析した。

IV 結果

1. 調査対象者の概要

調査対象者の概要を表1に示す。民生委員9名の内訳は、男性6名、女性3名であり、年齢は57歳から77歳(中央値67歳)であった。民生委員の経験年数は、最少2年から最大17年であり、平面地区の民生委員の経験年数が長いという特徴があった。援助対象者として把握している人数は、斜面地域で多い特徴があった。

表1. 民生委員の概要

対象	年齢	性別	民生委員 経験年数	援助対象 者人数	地域特徴
A	67	男	15	8	平面地
B	72	男	13	7	平面地
C	72	女	17	8	平面地
D	63	男	2	14	斜面地
E	57	女	9	23	斜面地
F	65	女	6	19	斜面地
G	59	男	9	1	新興住宅地
H	70	男	7	20	新興住宅地
I	77	男	9	3	新興住宅地

2. 民生委員になった経緯

民生委員になった経緯は、交通指導員や福祉関係の仕事をしていて、あるいは身内に自治会長などがいたという「民生委員の仕事に関連する背景を持つ」ことや、祖父の代から住んでいるなどの「担当地区に地縁がある」

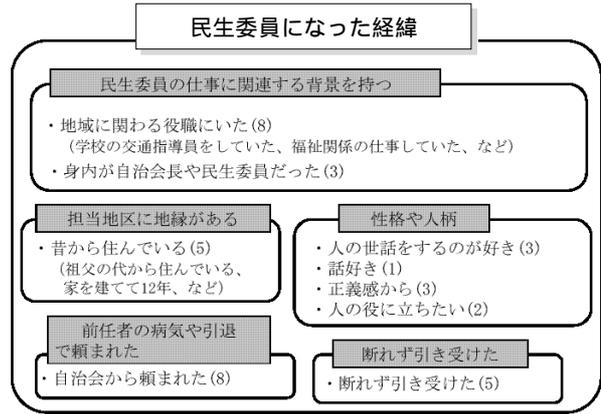


図1. 「民生委員になった経緯」KJ法による図解化

ということがあった。また同時に、人の世話をするのが好き、話がすきなどの「性格や人柄」を表す関連したグループがあった。

3. 活動に対する思い

活動に対する思いは、「活動への陰性感情」から「活動への陽性感情」という幅をもって成り立っていた。陰性感情は、個人にどこまで関わるのかといった悩みや大変なことが多い、ストレスを感じる、活動に対する疑問などの悩みや苦労があるといった内容からなるグループと、民生委員活動は無駄だという活動の否定のグループから成り立っていた。

陽性感情は、感謝されてうれしいや楽しい、待っていてくれるといった活動から自分自身が受けるよい影響のグループと、民生委員同士の連帯と協働が良い関係性であるといったグループから成り立っていた。大変なことはないや次の人を見つけれないといった両方の中間に位置するグループもあった。

陽性感情から、誰かの役に立ちたい、高齢者や弱者の支援の必要性の認識などからなるグループへ派生していた。この派生した感情が、がんばろう、続けていこうといった「活動の意欲、やる気」グループへつながっていた。

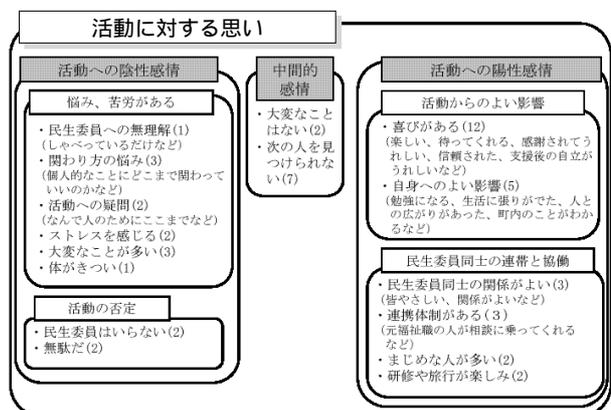


図2. 「活動に対する思い」KJ法による図解化

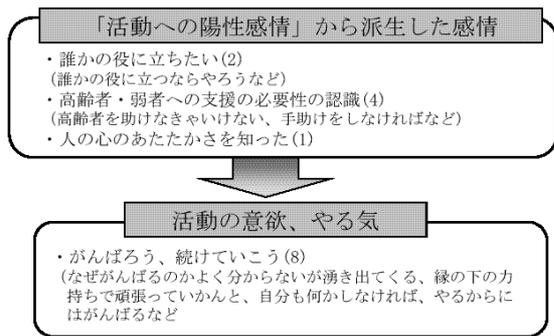


図3.「意欲・やる気」につながるKJ法による図解化

V 考 察

民生委員は、単に誰かということではなく、その人がもつ背景に関連して地域での活動を期待されて依頼されていた。依頼を引き受けたということは、少なからず民生委員活動に意欲をもった人材であったことが考えられる。これらのことは、活動の意欲ややる気といった基盤に関係すると考えられた。

活動に対するモチベーションは、低いモチベーションである陰性感情から高いモチベーションの陽性感情まで幅をもっていた。活動への陰性感情は、民生委員がケースへの個別援助での関わり方や困難事に悩みながら活動をしている内容から成り立っていた。活動を否定してしまう感情を抱くほどモチベーションが低下している内容も見られた。ある程度の意欲をもって活動を始めた民生委員のモチベーションが低下するような厳しい地域社会の状況が考えられた。個人情報保護法の施行により、民生委員がケースへ関わりをもつことが困難となってきたことも関係していると考えられる。ボランティア的立場である民生委員のバックアップ支援が必要である。中間的感情である次の人が見つからなくて続けていることは、積極的な活動理由ではないが、現在は活動しているということであろう。

活動への陽性感情は、1) 民生委員自身がケースとの関わる活動から得たよい影響と、2) 民生委員同士の連帯と協働から得られたものから成り立っていた。1)の活動から得た喜びや自身へのよい影響は、「行動に対するポジティブな気持ち」と、感謝や信頼されることで得られる「周囲の期待に従おうとする気持ち」になると考える。これらは、Ajzenの計画的行動理論 (Theory of planned behavior) ⁸⁾ に合致しており、その結果、がんばろうといった活動への意欲ややる気 (行動意思) につながり、民生委員活動の活力になっているのだと考えた。2)の民生委員同士の連帯・協働からは、同じ目的を持つもの同士の相互関係が活動への意欲ややる気につながっていると考えられた。民生委員をチームとして考えた場合、よい相互関係があることでチームのもつ活力は向上する⁹⁾。よいチームづくりができる支援体制が必要であると考えられた¹⁰⁾。

以上のことから民生委員のモチベーションを高くする

ためには、個別援助で困難事が生じたときに相談ができ支援が得られるバックアップ体制が必要であることが考えられた。また、ケースワークの方法などの教育的な支援の充実も必要であった。民生委員同士の連帯をもてる横のつながりのあるチームづくりも重要であると考えられた。そして、民生委員自身の活動が評価されることが活動の意欲やモチベーションの維持向上に役立つと考えられる。

VI ま と め

民生委員の活動に対するモチベーションを高く維持するためには、以下のことが考えられた。民生委員を支援していくためには、1) 個別支援で困難事が生じたときに相談ができ支援が得られるバックアップ体制が必要である、2) ケースワークの方法などの教育的な支援の充実が必要である、3) 民生委員同士の連帯をもてる横のつながりのある組織づくりが必要である、4) 民生委員自身が活動を意味あることとして実感できるために、高いモチベーションをもった活動を評価する体制も重要だと考えられた。

謝 辞

本調査にご協力いただいた自治会長と民生委員の方々に感謝申し上げます。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金 (萌芽研究 19659607) を受けた研究課題の一部をまとめたものである。

文 献

- 1) 中尾理恵子, 杉山和一, 他3名: 長崎市の斜面地と高齢者の生活影響について. 長崎県総合公衆衛生研究会誌.35. p6-7. 2003
- 2) 中尾理恵子, 杉山和一, 松坂誠應: 斜面市街地の居住者を対象とした歩行実験と意識調査. 土木構造・材料論文集.20. p127-135. 2004
- 3) Rieko Nakao, Ryoko Kawasaki, Kazuichi Sugiyama, et al.: The Sense of Well-Being of Hillside Residents in Nagasaki, Japan. GISUP2007 international. p3-7. 2007
- 4) S・ヴォーン, J・S・シューム, J・シナグブ, 井下理 [監訳]: グループインタビューの技法, 慶應義塾大学出版会株式会社, 東京, 1999, 114-123
- 5) 川喜多二郎: 発想法 創造性開発のために, 中公新書, 東京, 1967
- 6) 川喜多二郎: 続発想法 KJ法の展開と応用, 中公新書, 東京, 1970
- 7) 松本千明: 健康行動理論の基礎, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2002, 37-46
- 8) Karen Glanz, Barbara K.Rimer, Frances Mascus Lewis, 曾根智史, 湯浅資之, 渡部 基, 鳩野陽子

- [訳]: 健康行動と健康教育 理論,研究,実践, 医学書院, 東京, 2006, 77-119
- 9) 竹田清彦, 高橋健夫, 岡出美則: 体育科教育学の探求, 大修館書店, 東京, 1997, 142-143
- 10) 小島光洋: 地域保健活動の実践基盤となる専門職と住民との関係性に関する考察. 民族衛生, 72(3): 117-131, 2006

Working Motivation of Local Welfare Workers in Nagasaki City

Rieko NAKAO¹, Ryoko KAWASAKI¹, Kazuichi SUGIYAMA²

1 Department of Nursing, Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University

2 Graduate School of Science And Technologys, Nagasaki University

Accepted 7 March 2008

Abstract This study aimed to make clear the working motivation of local welfare workers in Nagasaki city, Japan. Representative 9 local welfare workers from 3 local areas that have different characteristic were selected. Face to face interviews with structured open questions/guideline were conducted. Collected data were analyzed by KJ method.

We found the diversity of motivation among workers. The negative sense, associate with low motivation was consisted of difficulty and anxiety for activities. On the other hand, contentment and valuable experience by welfare activities, and good relationship with co-workers make the positive sense, which is associated with high motivation

To keep and improve high working motivation which influence on quality of activity, active support system which include consultation, education, network among co-workers, and evaluation should be considered.

Health Science Research 20(2) 25-29, 2008

Key Words : motivation, local welfare workers, community, KJ method